

## ICT活用による業務の効率化

中核校	稚内市立稚内南小学校	指定校	稚内市立稚内港小学校、 稚内市立稚内南中学校
-----	------------	-----	---------------------------

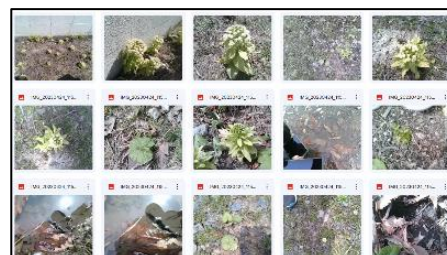
### ■ 実践前の状況

- ・授業において児童の学習状況の把握は机間指導が主だった。
- ・教職員への連絡、保護者へのアンケート等は紙媒体でのやりとりが中心だった。

### ■ 実践の概要

#### ○ 授業における児童の学習状況の把握

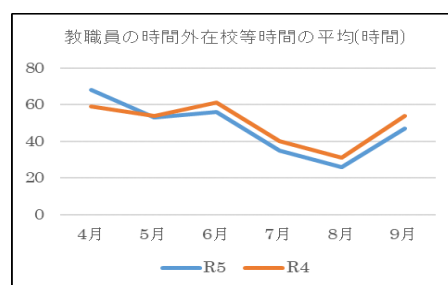
- ・学習支援アプリ（ロイロノートや Google クラスルーム等）を活用し、児童の考えをクラウド上で共有することで教師が個々の学習状況を把握するとともに、児童は、他者参照を行うなど、協働的な学びの充実を図った。
- ・AIドリルを活用し、児童の習熟状況に応じた個別最適な学びを推進することで、教師は、個々の定着状況を把握し、授業改善を図った。



【理科での学習状況の共有の様子】

#### ○ クラウド活用による業務の効率化

- ・教職員の Google クラスルームを活用し、連絡事項や職員動静が一目で分かる連絡表を作成することで、職員打合せ時間の短縮を図った。
- ・学校評価アンケートを Google フォームで作成することで、集計作業にかかる時間の削減を図った。
- ・校務支援システムの活用により、教員による成績入力や通知表作成の作業の簡略化により、時間外在校等時間の削減を図った。



【教職員時間外在校等時間の推移】

### ■ 実践の充実に向けた取組の工夫

#### 〔校長の取組〕

- ・校長間の協議を経て事業推進計画を策定し、各校教職員に目指すべき内容の理解を図った。
- ・学校経営方針の中で事業に関連する施策を明記し、校内で取組が確実に実行される体制を構築した。進んでいない取組に対し、推進担当者へ他地域の実践に関する情報提供を行った。
- ・地域協議会の中で事業の進捗状況を確認し、各校で取り組むべきことを明確にした。

#### 〔事務職員及び専科教員の取組〕

- ・理科専科教員が積極的に ICT を活用した授業実践を進め、児童の学習意欲向上や理解促進に努めるとともに、地区内・市内での積極的な授業公開を行い、受けた指導・助言を授業改善に生かした。
- ・加配事務職員が率先的に ICT を活用した業務の効率化を提案し、中核となって取組を推進した。

### ■ 成果 (○) と今後の課題 (●)

- ICT を活用した授業改善により、子どもが分かる授業づくりを進めることができた。

〔学校評価（保護者）の「学校は子ども達ที่分かる授業づくりをしている」の項目において、肯定的な評価が増加した。(R4 : 95.4% ⇒ R5 : 98.4%)〕

〔学校評価（児童）の「タブレットを活用した授業がよく分かる」の項目において、肯定的な評価が高い割合を保っている。(R4 : 94.2% ⇒ R5 : 94.4%)〕

- 教職員の意識改革を一層図り、時間外在校等時間の更なる縮減を目指す必要がある。(年間時間外在校等時間平均の縮減 R5 : R4 比 40 時間の縮減 ⇒ R6 : R4 比 100 時間縮減の達成)